



## 本市のデータ

- |         |   |                     |
|---------|---|---------------------|
| (1) 面積  | 27.6km <sup>2</sup>   | (5) 産業構造 (H22国勢調査)  |
| (2) 人口  | 12,420人 高齢人口31.6% (H24.10.1現在)  | 一次産業 664人 (11.8%)   |
| (3) 世帯数 | 4,849世帯 (H24.10.1現在)  | 二次産業 1,554人 (27.7%) |
| (4) 沿革  | 明治22年市制・町村制施行により14村合併<br>関村・白潟村・南白亀村発足。<br>その後、白潟村が町制を施行。<br>昭和30年1町2村合併。<br>白子神社の名をとって白子町誕生。 | 三次産業 3,386人 (60.4%) |

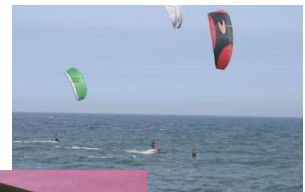


## 本市の概要

白子町は、千葉県中央部、九十九里沿いに位置しています。地形は、東西5.7km、南北6.3kmでほぼ正方形に近い形をしています。町の東部は九十九里浜で白砂青松の景観を有する砂浜と松林がつづき、雄大な太平洋を臨んでいます。

砂浜はマリンスポーツで賑わい、初夏にはハマヒルガオが咲き、アカウミガメが産卵に訪れます。

海岸通りのヨードを含んだ「美肌の湯」白子温泉周辺には約340面のテニスコートがあり、インターハイや国体等の競技会場としても使用されています。産業面では、トマトやメロン等の施設園芸や小ねぎやサラダ菜、ガーベラの水耕栽培が盛んに行われています。



## 支援に向けての取り組み状況

### <対策の方針・目標>

白子町では、ここ数年約5名/年の自殺が発生している。県の自殺統計と同様に、その多くは、働き盛りの男性である。自殺の原因は、家庭環境や健康問題等あるが、その中でも精神疾患が原因とされているものが目立つ。そして、自殺の引き金となる精神疾患の中でも「うつ・うつ状態」は報告・相談も多い。うつの主症状に「不眠」があげられる。「不眠」という症状は、周囲が気づきやすく、自身も訴えやすいものである。このことから、自殺との関連が強いうつ病の主症状である「不眠」に焦点をあて、予防・早期発見のための啓発活動を行っている。

## <具体的な取組み>

### <啓発活動>

平成24年度:

#### 【働き盛りの年齢中心に実施】

- ・ 広報での周知(10月号～2月号)不眠の与える影響や不眠からわかる病気
- ・ 献血事業に併せて働く世代への啓発物品の配付
- ・ 保健センター窓口での啓発物品の配付
- ・ 全世帯へのリーフレットの配布(不眠、医療機関受診、各種相談窓口について掲載したリーフレット)

平成25年度(予定):

#### 【ストレス耐性を高める生活習慣も念頭に若年層を含めた啓発活動の実施】

- ・ 若年層も含め、住民へ自殺との関連が強い、うつ病(不眠)について周知
- ・ 相談機関の周知(適切な受診等)、生活習慣病予防教室時にアプローチ
- ・ 乳幼児健診等の際に保護者に対し睡眠とその影響について周知